

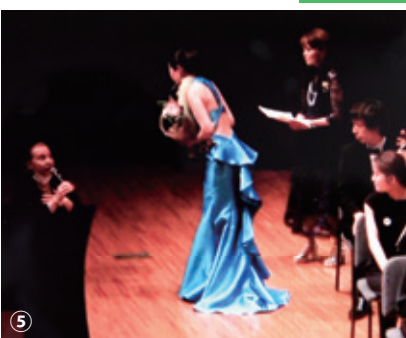
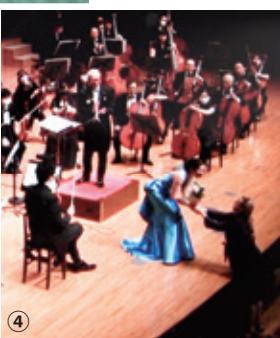
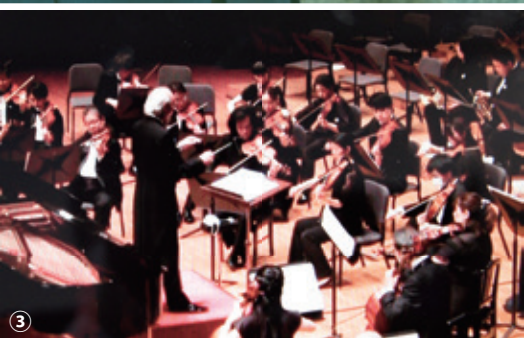


①ウクライナから避難したバイオリン奏者のユリヤ・ガブリレンコさん（写真右から2番目）との一枚 ②ユリヤさんが日本に感謝を伝えるため行ったコンサート ③日本で行ったウクライナの人道支援コンサート「ウクライナの平和を祈ろう！」の様子 ④⑤人道支援コンサートの演奏後、ステージに駆け寄ったウクライナの人から感謝を伝えられる



## 指揮者 守山 俊吾さん

市在住。ブルガリア国立ソフィア・フィルハーモニック管弦楽団常任客演指揮者を務めるなど世界中で活動。日本人としては初めて世界3大音楽協会であるサンクトペテルブルク・フィルハーモニー協会の名誉会員となる。



ウクライナをチャリティコンサートなどで支援

# 人や平和を思う心 音楽でつなぎたい

——なぜ音楽の道を志し、指揮者となられたのですか？

私は香川県の直島育ちです。音楽に興味をもったきっかけは、島の学校に当時珍しかった吹奏楽部があったこと。学生時代もプロになってからも、指揮者ではなく奏者として活動していました。

転機があったのは35歳のとき。楽団の指揮者が倒れて急遽私が指揮することに。それから自分で音楽の世界観をつくり出せる指揮者にやりがいを感じ、その道を進みました。ロシアやブルガリア、ウクライナなど多くの国の音楽家と交流し、さまざまな仕事の機会をいただきました。

——ウクライナ支援の経緯について教えてください。

ロシアがウクライナに侵攻したと聞いた時、両国の音楽家やお客さん、友人の顔が頭に浮かび胸が痛みました。私の知る限り戦争を望むような人は一人もいません。音楽家としてできる支援を考えたとき、音楽で思いを届けることだと思いました。日本で有志を集めて行ったコンサートの後、駆け寄って涙ながらに感謝を伝えるウクライナのかたを見た時、皆の思いが届いたことを実感できました。また、避難しているウクライナ人のバイオリン奏者に有志で楽器を提供したところ、日本人に感謝を伝えるコンサートを行ってくれたんです。音楽が心をつないでいくさまに、胸が熱くなりました。

——今後やろうと思っていることを教えてください。

音楽家が戦争を直接止めることはできないと思いますが、少しずつ人の心を動かしていくことはできます。音楽に思いをのせて、世界中の人に届け続けていこうと思います。

**CHECK & QUIZ** 次の空欄（○の中）を埋めてください。  
1：○ろう。自転車ルール 2：こども医療費 ○月から無料

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、6月12日（月）（消印有効）までに〒666-8501・広報広聴課「クイズ」係へ。

※5月号の正解は（ち）（金）で、136件の応募がありました。



**4月末現在の人口** （0内は前月比）

男・・・72,802人（-78）  
女・・・81,639人（-46）  
計・・・154,441人（-124）  
世帯数・・・71,489世帯（+73）